



日本女医会誌

復刊第 208 号
2011 年 10 月 25 日発行
題字 吉岡彌生

巻頭言 よりよい生活環境の実現に向けて

副会長 松井ひろみ

8月7日に行いました臨時総会は、先生方のご協力により定款改正に必要な全構成員の3分の2以上の賛成を得て無事終了することができました。心から厚く御礼申し上げます。会員各位の意思決定がますます重要になることを痛感しております。また、9月4日の女性医師支援シンポジウムも素晴らしい演者を得て有意義な満足できる会にして頂き感謝致しております。

昨年6月、「子ども・子育て新システム」の基本制度が公表され、子どもの良質な育成環境の保障、出産・子育てへの支援、仕事と家庭の両立支援等が盛り込まれました。社会保障・税一体改革の原案にも、子育て支援、医療・介護サービス改革が最優先課題として明記されています。子育て支援の重要性を政治・経済・社会全体が認識するようになってきたことは確かです。女性就労の増加や、就労形態の多様化が進むなかで、両親とも正規職員とする「保育に欠ける」という従来の入所要件では保育行政は対応出来ないのが現状でしょう。当会が数年前に行った調査でも保育園、病児・病後児保育のニーズは極めて高い結果を得ています。にもかかわらず施設数は少なく、1996年からはじまった国の補助を受けても経営は多額の赤字を抱える状態でした。近年この傾向はますます大きくなっていると思いますが、小児科を開業する医師が院内に併設の保育所をつくり成功している例もあると聞きます。もし国の補助により、日

本女医会の各開業医が診療所に保育園を併設することができれば、画期的な取り組みになると考えますが、夢物語でしょうか。

本年の女性労働白書「働く女性の実情」によると、女性雇用者数は過去最多、しかも医療・福祉への進出は前年比5.2%増とめざましい増加です。女性に参政権がなかった時代に女性の自立と自由をテーマにした「青鞥」が創刊100年を迎えたそうですが、日本女医会がこれ以前に数人で設立したことを考えると、私達は先輩女性医師の勇気と先見性のある行動を確実に未来へ生かさなければならぬ使命があると思います。参政権を得て64年、男女雇用機会均等法が成立して25年、やっと女性の出番がきた感があります。少子高齢化、人口の減少、殊に労働人口の減少を補うためには女性の力が必要です。確かな教育を受け、能力ある女性を有効活用する社会・制度・仕組みを早急に構築する必要性を痛感致します。女性を生かすことが不況を乗り越え経済を安定させ、医療の崩壊を防ぎ、日本を再生させる原動力になるものと確信致します。

日本女医会は公益法人化をすすめ、女性医師や働く女性の労働環境の整備・労働条件の改善に取り組み、子供にも男性にもより良い生活環境の実現に向けて努力してまいります。会員皆様の一層のご指導ご協力を心からお願い申し上げます。

日本女医会誌 (第208号) もくじ

巻頭言	松井ひろみ (1)
日本女医会第30回学術研究助成報告	
池田啓子、大家理恵、佐藤加代子	(2)
臨時総会	
会長ご挨拶	津田喬子 (4)
評議員会議事録、臨時総会議事録	(4)
第5回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム	
澤口彰子	(6)
万国外科学会における女性外科医師のセッション	
富澤康子	(8)

TVドラマ“JIN”	酒井シヅ (9)
小田泰子著『スペイン風邪流行とその時代』を読んで	
秋葉則子	(10)
被災地の先生から	熊谷貴代 (11)
東日本大震災 義援金のご報告・続報	(12)
理事会議事録	(12)
社団法人日本女医会 第1回 提言論文募集	(15)
日本女医会よりご案内	(16)
会員動静、編集後記	(16)

日本女医会 第30回学術研究助成報告

社団法人日本女医会第30回（平成21年度）学術研究助成を授与された3名の先生方の研究経過報告を掲載いたします。

遺伝子改変マウスを用いた ジストニアパーキンソニズムの 分子病態解明

兵庫医科大学 生物学 池田啓子

[研究目的]

Naポンプは、細胞のNaイオン勾配を形成維持し、神経興奮の基礎となる能動輸送酵素である。Naポンプ α 3サブユニット遺伝子 (*Atp1a3*) は、神経細胞で特異的に発現し神経興奮の制御に関与するとともに、急性発症型ジストニアパーキンソニズム (RPD) の原因遺伝子としても同定されている。本研究では申請者が一昨年度前に樹立した *Atp1a3* 欠損マウスの、神経機能に関わる表現型を電気生理学的に解析し、将来的に RPD の病態解明と治療法開発につなげることを目的とした。

[方法と結果]

1. *Atp1a3* の mRNA を in situ ハイブリダイゼーションで調べると、Adult Neurogenesis がおこっている、海馬や脳室下層の細胞に発現が多いほか、小脳のプルキンエ細胞周辺に強いシグナルがみられた。 α 3サブユニットに対する特異抗体を用いたタンパク質の局在をみる抗体染色では、細胞膜に散在するシグナルと、pinceau 構造と呼ばれる抑制性の軸索シナプス終末が集積したと考えられる部位に強い染色シグナルが観察された。このことから α 3サブユニットはプルキンエ細胞の細胞膜に存在するのみならず、抑制性のプレシナプスに集積している可能性が考えられた。なおヘテロ欠損マウスの脳内強発現部位に、神経細胞死が上昇していることは観察できなかった。

2. 小脳からのシグナル出力は、プルキンエ細胞であり、プルキンエ細胞には複数種類の細胞が投射する。このうち興奮性のシグナルを送るのは顆粒細胞（平行繊維）と下オリブ核の細胞（登上繊維）である。抑制性のシグナルを送るのは小脳分子層に存在するバスケット細胞とステレート細胞であり、pinceau 構造においてシナプスを作っている。これらの細胞からの神経伝達を電気生理学的に解析したところ、1. の観察と一致して、抑制性シナプス伝達効率が有意に低下していた。

[今後の方針]

ヘテロ欠損マウスで観察された電気生理学的差異が、どのようにジストニア症状発症につながるのか、現在種々の行動実験系にて、検索中である。

[最後に]

現象の本質にたどりつくのはまだ時間がかかりますが、諸先生にご支援いただき、日本女医会研究助成をいただきましたおかげで、今回新たな発見ができました。選考委員の諸先生方また日本女医会の会員の諸先生に心から深く感謝申し上げます。

中年日本人における 体重増加と2型糖尿病 発症との関係

北陸中央病院 内科 大家理恵

[緒言]

肥満は2型糖尿病発症の予測因子である。健診や診療場面において我々は、BMIや腹囲を用いて肥満を診断し、糖尿病発症リスクを評価している^{1,2)}。しかし日本人では非肥満者からも2型糖尿病発症がみられることも事実である。一時点では肥満と診断されないような体格の小さい者においては、数年間の数kgの体重増加が、2型糖尿病発症の契機となっていないだろうか？本研究は、中年日本人男女の2型糖尿病発症において、体重増加が、BMIとは独立した説明要因になっていないかを調べることを目的として行った。

[対象と方法]

当院の健診受診者のデータベースを用いた後ろ向きコホート研究。我々は先に、2001～2008年の、平均4.9年のフォローアップ期間において、4,165人中103人の糖尿病発症を認め、糖尿病発症予測因子について報告した³⁾。このデータセットを用いて、体重変化（[フォローアップ時の体重] - [ベースラインの体重]）が数年後の糖尿病発症に対してBMIから独立した予測因子かどうかを調べた。糖尿病発症の診断は空腹時血糖値126mg/dl以上または問診上糖尿病治療中で診断した。統計解析は糖尿病発症を被説明変数、体重変化を説明変数とした二項ロジスティック回帰分析を行い、ベースラインの空

腹時血糖値、BMI、年齢、喫煙、飲酒、性別、他の代謝要因で調整した。

[結果]

糖尿病発症に対して、体重変化は独立した正の関連を示した ($p<0.05$)。ベースラインの空腹時血糖値、BMI、その他の代謝要因で調整しても関連は独立していた。また男女、肥満 (BMI 25 以上) の有無で層別化しても結果は同じであった。

[結語]

中年期の糖尿病発症予防においては、肥満者においては少なくとも体重を増やさないこと、また非肥満者においても体重を維持することが重要であるといえる。

[謝辞]

助成金を頂いた日本女医会の諸先生方に感謝致します。成果は現在発表準備中です。

参考文献

- 1) Oka R, Miura K, Sakurai M, et al. Comparison of waist circumference with body mass index for predicting abdominal adipose tissue. *Diabetes Res Clin Pract* 2009;83(1):100-5.
- 2) Oka R, Miura K, Sakurai M, et al. Impacts of visceral adipose tissue and subcutaneous adipose tissue on metabolic risk factors in middle-aged Japanese. *Obesity (Silver Spring)*. 2010 Jan;18 (1) :153-60.
- 3) Moriuchi T, Oka R*, Yagi K, et al. Diabetes progression from "high-normal" glucose in school teachers. *Intern Med.* 49(13) :1271-6, 2010. (* corresponding author)

更年期女性における CD4 T 細胞上の接着分子 PSGL-1 による血管内皮細胞障害

東京女子医科大学 循環器内科 佐藤加代子

[目的]

更年期以降、女性は急速に動脈硬化が進展し、動脈硬化性疾患である急性冠症候群 (ACS) の罹患率が増加します。動脈硬化粥腫には多数の炎症細胞浸潤や血管組織での接着分子発現亢進が認められますが、更年期女性における動脈硬化進展機序、特に粥腫内に多く浸潤している CD4 T 細胞の役割は明らかではありません。我々は、更年期女性 T 細胞の接着分子発現および CD4 T 細胞による血管内皮細胞障害を調べることで、T 細胞の動脈硬化進展への関与を検討しました。

[方法]

月経が半年以上なく、閉経後 5 年以内の更年期女性 (PMW) 48 例及び月経周期正常な女性 (Cont) 54 例を対象とし以下の検討を行いました。

1. 血漿エストロラジオール (E2) 濃度を ELISA

法で測定。 2. CD4 T 細胞とヒト臍帯静脈血管内皮細胞 (HUVEC) を共培養し、HUVEC のアポトーシスを解析。 3. CD4 T 細胞上の接着分子である L-selectin (CD62L)、P-selectin glycoprotein ligand-1 (CD162, PSGL-1)、Integrin $\beta 2$ (CD18)、Integrin αM (CD11b) を FACS で測定。 4. ラミナーフロー (層流) 下で活性化 HUVEC への CD4 T 細胞のローリングと接着の強さを解析。

[結果]

1. E2 レベルの低い PMW 群 CD4 T 細胞は血管内皮細胞アポトーシスを誘導し、アポトーシスの程度は E2 レベルが低いほど強く認められました ($R=-0.307$, $P=0.0296$)。 2. PMW 群において CD4 T 細胞上の PSGL-1 および Integrin $\beta 2$ 発現は Cont 群に比較して増強しており ($P<0.0001$, $P=0.0285$)、PSGL-1 発現も E2 レベルが低いほど強く認められました ($R=-0.781$, $P=0.0002$)。 3. PMW 群において E2 処置により、CD4 T 細胞上の PSGL-1 発現および T 細胞誘導性血管内皮細胞アポトーシスが有意に抑制され ($P=0.0015$, $P=0.0281$)、E2 の作用はエストロゲン受容体拮抗薬により抑制されました ($P=0.018$, $P=0.0097$)。 4. PMW 群における CD4 T 細胞上の PSGL-1 発現は血管内皮細胞への接着の強さ ($R=0.636$, $P=0.0355$) 及び T 細胞誘導性血管内皮細胞アポトーシスに相関を示し ($R=0.614$, $P=0.0196$)、これらは抗 PSGL-1 抗体によって各々有意に抑制されました ($P=0.0057$, $P=0.001$)。

[結論]

更年期女性では、PSGL-1 発現の増強した血管内皮細胞障害性の強い CD4 T 細胞が多数認められ、動脈硬化進展に重要な役割を担っていると考えられました。CD4 T 細胞による血管内皮細胞アポトーシスは、エストロゲンおよびエストロゲン受容体を介する PSGL-1 発現に依存しており、更年期女性に対するエストロゲン早期補充療法は、女性における心血管イベント発症予防に有益であることが期待されます。

最後になりましたが、日本女医会学術研究助成をお受けしている間に、研究が進展し論文をまとめることができました (PSGL 1-expressing CD4 T Cells Induce Endothelial Cell Apoptosis in Perimenopausal Women, Gomita K, Sato K, et. al, JAT, 2011, in press)。津田喬子会長をはじめとして選考委員の諸先生方、また日本女医会の会員の諸先生、本研究の機会を与えてくださいました東京女子医科大学循環器内科学教室・萩原誠久教授に心から深く感謝申し上げます。

臨時 総会

会長挨拶

津田喬子

朝夕の涼風に秋の訪れを感じる候となりました。東日本大震災から早や半年が過ぎましたが、会員の皆様にはその後いかがお過ごしでしょうか、お伺い申し上げます。

さて、この度の臨時評議員会ならびに臨時総会開催に関しましては、このような事態を招きましたことをまずもってお詫び致します。さらに、委任状の提出等で皆様には大変ご無理を申しあげましたが、ご理解と真摯なご協力により臨時総会が成立し、支部の規定に関連する定款変更を審議のうえ承認していただきましたことを心より感謝申し上げます。

臨時評議員会、臨時総会で公益社団法人申請について多くの質問をいただきました。例えば、定款の文言が判り辛いとのこと指摘ですが、内閣府公益認定

等委員会のご指導により修正したものとなっています。支部には公益社団法人の名称は付けられませんが、日本女医会〇〇支部と名乗ることを許諾できますので、従来通りの関係を保って活動をしていただけます。また、公益社団法人取得後は税制上の優遇処置により、行政、企業など各方面から寄付を受けやすくなります。

今後は、公認会計士を始めとして、公益社団法人を取得している関連機関とも情報を交換し、理事会において公益社団法人申請の準備を進めてまいります。公益社団法人の取得に関して、会員の皆様からのご意見も頂戴したいと存じますので、事務局までメール、FAX等でご連絡下さい。

皆様のいっそうのご健勝を祈念申し上げます。

【連絡先】 (社) 日本女医会事務局 (柳澤、嶋田)
電話 03-3498-0571
FAX 03-3498-8769
e-mail office@jmwa.or.jp

評議員会議事録

平成23年8月7日(日)午後1時3分より、京王プラザホテル(東京都新宿区西新宿2-2-1)において、臨時評議員会が開催された。

開会の辞

山本纈子副会長より、開会の言葉を述べ開会を宣した。

司会の宮本治子理事より平成23年6月30日現在の評議員数92名に対し、出席者数31名、書面表決者数13名、記名委任者数27名、記名委任の内訳、津田喬子会長20名、中山年子先生3名、その他4名であり、合計71名。日本女医会定款第32条の規定による総構成員数の2分の1以上であることから、本評議員会は適法に成立している旨が報告された。

また今回の評議員会は「定款の変更」のみの議案であり、日本女医会定款第40条の規定により総構成員の3分の2以上の同意を得なければならないが、出席者、記入委任者数、書面表決者数の総計の71名は、3分の2以上である旨が報告された。

会長挨拶

津田喬子会長より、議案の審議に先立ち挨拶があった。

議長選出

慣例により、会長一任で議長に木村あさの会員、議事録署名人に齋藤恵子会員、熊谷貴代会員が指名され、拍手多数で、異義なく選出された。議長は議長席に着いた。議事録署名人は議事録署名人席に着いた。

中山年子会員より挙手があり、臨時評議員会と臨時総会が同時に開催されていることについて質問があり、津田会長の回答があった。

議事

【第一号議案】定款の変更

松井副会長より「定款変更」が上程され、羽田氏による詳細の説明があった。議長は第1号議案について質問、意見を求めたところ、下記の質疑応答があった。

質問：定款第18条について、もう少し詳しく教えてほしい。

回答：基本的にこの変更案は、国で示している「定款の変更の作成の案内」に基づいて会員の議決権について規定をしており、その会員の過半数の賛成が得られないと決議ができない旨規定している。

質問：今回の定款の変更は、第18条の第2項に当てはまると考えてよいのか。規定数までの賛成、または委任を得ているのか。

回答：現行の日本女医会の規定に基づき、評議員会、総会ともに3分の2以上の賛成を得る必要がある。

以上で議長は採決に入った。

賛成者の挙手を求めたところ、挙手多数(全員)と認めた。

議長は以上の結果、第1号議案は原案のとおり、また細かい文言に関する訂正を理事会に一任する件についても承認可決した旨を述べ、定款改正が承認された。

閉会の辞

古賀詔子副会長より、閉会の言葉を述べ閉会を宣した。

(午後1時27分閉会)

臨時総会議事録

平成23年8月7日(日)午後2時7分より、京王プラザホテル(東京都新宿区西新宿2-2-1)において、臨時総会が開催された。

開会の辞

山本纈子副会長より、開会の言葉を述べ開会を宣した。

司会の小関温子理事より平成23年6月30日現在の総会員数1,593名に対し、出席者数39名、記名委任者数607名、書面表決者数444名、合計1,090名であり、日本女医会定款第29条の規定により、会員総数の2分の1以上であることから本総会は適法に成立している旨が報告された。

また「定款の変更」のみの議案であり、日本女医会定款第40条の規定により総

構成員の3分の2以上の同意を得なければならないが、出席者、記入委任者数、書面表決者数の総計の1,090名は3分の2以上である旨が報告された。

会長挨拶

津田喬子会長より、議案の審議に先立ち挨拶があった。

議長団選出

慣例により、会長一任で議長団に鈴木カツ子会員、野崎京子会員、議事録署名人に山崎康子会員、小栗貴美子会員が指名され、拍手多数で、異義なく選出された。議長団は、議長席に着いた。議事録署名人は、議事録署名人席に着いた。

議事

【第一号議案】定款の変更

松井副会長より「定款変更」が上程された。

議長は第1号議案について質問、意見を求めたところ、下記の質疑応答があった。

質問：定款に「社員」、「会員」、「総会員」とあるが、違いを説明してほしい。

回答：通称「法人法」と呼ばれている法律に基づく、公益法人の通常「会員」と呼ばれているものは、法律上「社員」という言い方をする。正式名称は「社員」であるが、

社団法人日本女医会として「正会員」、「特別会員」が法律の「社員」であるとして規定をしている。基本的に定款上「会員」といういい方に統一して、一部分のみ法律上の「社員」といういい方をしているので、通常は「会員」として統一している。

質問：評議員会の在り方を説明していただきたい。

回答：財団法人では評議員会が法定されているが、社団法人には評議員会を設けない形が基本的であるため、定款変更案上削除した経緯がある。今後理事会等で検討することになる。

質問：定款の文章が雑だと思うが、法律に沿って作った文章であるのか。

回答：国の定款の例に基づき作成し、国にも数回見てもらっている。国から指摘されたことを優先して使用している。

質問：評議員会を置くとしたら、定款のどの部分に入れるか。

回答：定款に入れるとしたら、理事会の次ではないか。

質問：このままだと総会から直に理事会へつながることになる。会員の意向を吸い上げるために、総会だけ

でやっていけるのか。

回答：基本的な執行方針等は理事会で決めるべきものというのは国の考え、法律の考えである。

津田会長：会員の一人一人が議決権と意思表示がある、ということが今回の改訂の趣旨である。定款には入れられないが、他の方法での評議員的なものの可能性を検討したい。

また、細かい文言に関する訂正を理事会に一任する、という点もお諮りいただきたい。

以上で議長は採決に入った。

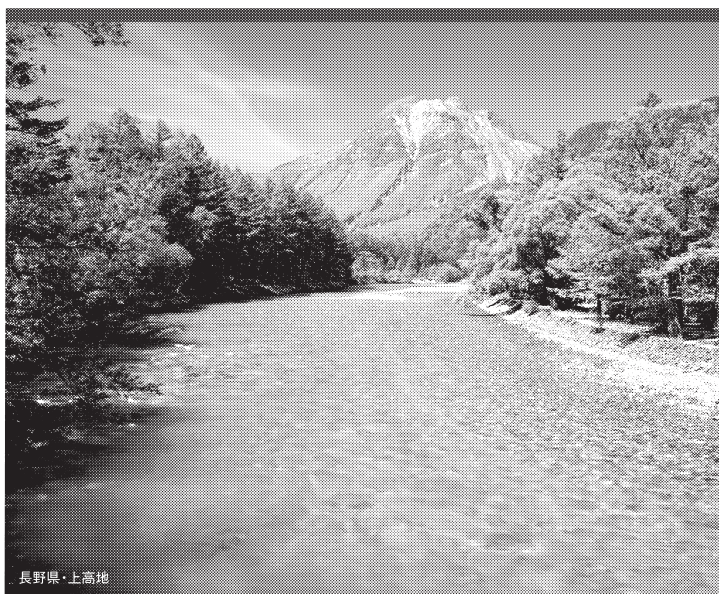
賛成者の挙手を求めたところ、挙手多数（全員）と認めた。

議長は以上の結果、第1号議案は原案のとおり、また細かい文言に関する訂正を理事会一任する件についても承認可決した旨を述べ、定款改正が承認された。

閉会の辞

古賀詔子副会長より、閉会の言葉を述べ閉会を宣した。

(午後3時18分閉会)



長野県・上高地

循環器・糖尿病領域は、アステラス。

HMG-CoA還元酵素阻害剤（アトルバスタチンカルシウム水和物錠）【薬価基準収載】

リピートル錠 5mg 10mg

処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）

Lipitor®

経口プロスタサイクリン（PGI₂）誘導体制剤（ペラプロストナトリウム錠）【薬価基準収載】

ドルナー錠 20μg

劇薬、処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）

DORNER®

胆汁排泄型持続性AT₁受容体ブロッカー（テルミサルタン）【薬価基準収載】

ミカルディス錠 20mg 40mg 80mg

処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）

Micardis®-Tablets

速効型食後血糖降下剤（ナテグリニド錠）【薬価基準収載】

スターシス錠 30mg 90mg

処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）

Starsis®

アステラス製薬株式会社

東京都板橋区蓮根3-17-1

【資料請求先】本社 / 東京都中央区日本橋本町2-3-11

■ご使用に際しましては、製品添付文書をご参照ください。

第5回 医学を志す 女性のための キャリア・シンポジウム

女性医師支援委員会委員長 澤口彰子

日本女医会ではこれまでも女性医師の調査研究や、働く女性のための育児環境整備支援、医師の母性保護、学会への託児所設置要求、専門医取得期間中の産休や育児休業の申し入れなどを行ってまいりましたが、平成19年から「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー」を展開いたしております。初年度は「ペーパードクターにならないで」、20年度は「キャリアもライフもピカピカに磨こう」、平成21年度および22年度は「女性医師が働き続けられる環境の実現に向けて」と題しまして、医学を志す女性たちに医師の現状、必要な法律の情報を伝え、各分野での取り組み、先輩たちの体験を聞くことで、個人にとっても社会にとっても意義のある考える機会を提供して参りました。

今年度は「各大学における女性医師支援の成果と

問題点」(プログラム：次頁参照)と題しまして、午前は大大学医学部からのご講演を頂き、午後は日本医師会、内閣府、大



学医学部、メディアからのパネリストによって、「大学等の女性医師支援から医学界における男女共同参画社会へ」と題してパネルディスカッションを行い、さまざまな可能性を追及しました。

女性医師支援活動を先駆けて行ってきた東京女子医科大学からは、同学男女共同参画推進局運営委員会議長、および同女性医師再教育センター長・川上順子教授が「各大学における女性医師支援……」の各大学という課題は女性医師支援の方向づけの有無によって異なり、重要であると最初に述べられました。同学では、男女共同参画推進局運営委員会、および同女性医師再教育センターを立ち上げ、保育、勤務体制、キャリア形成を支援しており、医師としての社会貢献の成果を徐々にあげていますが、問題点

www.aricept.jp



劇薬・処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
アルツハイマー型認知症治療剤 (薬価基準収載)

日本薬局方 ドネベジル塩酸塩錠
アリセプト® 錠 3mg
錠 5mg
錠 10mg

日本薬局方 ドネベジル塩酸塩細粒
アリセプト® 細粒0.5%

アリセプトD® 錠 3mg
錠 5mg
錠 10mg
〈ドネベジル塩酸塩口腔内崩壊錠〉

アリセプト® 内服ゼリー 3mg
内服ゼリー 5mg
内服ゼリー 10mg
〈ドネベジル塩酸塩製剤〉

●効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元
Eisai エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

販売提携
Pfizer ファイザー株式会社
東京都渋谷区代々木3-22-7

資料請求先：
エーザイ株式会社 お客様ホットライン/ファイザー株式会社 製品情報センター

ART1102M03

は指導する人材や経費であるとのことでした。東邦大学男女共同参画推進室長・中野弘一教授は東京女子医科大学をモデルにし、個々の事例を検討して、女性医師支援室を開設したこと、その成果として、特に女子学生に仕事と家庭の両立のモデルをみせることができたことと述べられました。問題点は女性教員スタッフの養成が不十分とのことでした。三重大学の富本秀和教授は三重県の女性医師支援状況および三重大学医学部女性医師支援策を述べられました。地域に根差した報告であり、専門医を取得するためのトレーニングが時期的に出産・育児と重なっている問題点を指摘されました。自治医科大学の桃井真理子教授は同学の女性医師支援センターの4つの柱である就業継続・育児・復職・地域医療従事医師の支援、さらに女性医師の様々な態様の日米の違いを述べられました。医育機関での女性医師支援のあり方として、男女の家庭内役割意識の撤廃、キャリア教育の充実、教育結果の社会還元意識の徹底をあげられました。今後の計画としては、女性医師支援センターからキャリア支援センターへの進化を予定していると言及されました。パネルディスカッションでは、はじめに、日本医師会男女共同参画委員会・小笠原真澄委員長から日本医師会における詳細な取り組みなど意義ある報告を頂きました。内閣府・福下雄二審議官からは男女共同参画局をつくられたこと、医学会における男女共同参画には女性医師の意志決定過程への参画の拡



大および女性医師の就業継続が二つの輪として結びついていることを、パネリストご自身のワークライフバランスや持論を交えて理解しやすい報告を頂きました。今回初めてご参加頂いた読売テレビ放送株式会社・岩田公男特別論説委員は読売テレビ等の女性アナウンサー等の出産・育児、勤務体制、キャリア形成過程を調べられ報告されました。メディア界ではじめての発表とのことでしたが、女性医師支援に参考となる点や、男女共同参画としての問題点もうかがわれました。パネリスト間での討論、午前に発表された先生方のフロアからの質問やご意見、会員の先生方のご発言など大変多く、ご参加頂いた方々に深謝申し上げます。

今回のシンポジウムも第4回と同じく、委員会で報告書として刊行し、各界に広く広報する予定です。

先日送付いたしました「第4回 医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム報告書」の表紙部分に訂正がございます。大変申し訳ございませんでした。

誤→「子育て委員会」 正→「女性医師支援委員会」

女性医師支援委員会より

プログラム

主催：社団法人日本女医会 共催：日本医師会 後援：厚生労働省、内閣府、東京都医師会

「各大学における女性医師支援の成果と問題点」

<午前部> 東京女子医科大学 川上順子 教授

東邦大学医学部 中野弘一 教授

三重大学医学部 富本秀和 教授

自治医科大学 桃井真理子 教授

<午後部> パネルディスカッション「大学等の女性医師支援から医学界における男女共同参画社会へ」

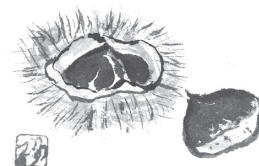
内閣府 福下雄二 審議官

日本医師会男女共同参画委員会 小笠原真澄 委員長

自治医科大学 桃井真理子 教授

読売テレビ放送株式会社 岩田公雄 特別解説委員

日本女医会女性医師支援委員会 澤口彰子 理事



万国外科学会における女性外科医師のセッション

東女医学内 富澤康子

2011年8月28日から9月1日まで、横浜において第44回万国外科学会、(ISW2011、大会長：渡邊昌彦先生、北里大学)が開催されました。日本女性外科医会(JAWS)は医学会分科会の学会、米国女性外科医会(AWS)、他の団体と共催させていただきました。

AWS Main Session, Mentorship across bordersの座長は Drs. Numann (米国)、Yip (マレーシア)でした。演者は南アフリカ、米国、日本からで、萬谷京子先生がJAWS正会員を対象としたアンケート調査の結果を発表しました。フロアーからの質疑応答は活発でした。

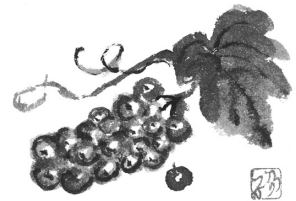
JAWS/AWS Main Session, Academic surgeon and work-life balance を水田祥代先生と Dr. Sanfey (米国) が座長をなさいました。徳永えり子先生が九州大学の取り組みを、川瀬和美先生は米国、香港、日本の女性外科医アンケート調査結果を報告しました。女性外科医のWLBをいろいろな角度からとらえ、

外国の取り組みを知るにより、今後の労務環境改善が期待できます。

朝7時からAWS主催、Dr. Numannの朝食会がありました。ビュッフェスタイルで円形テーブルを囲み、日本人女子医学生を含め、40人くらいが参加しました。ネットワークを作るには学会時の朝食会が優れていると思います。

JAWSは、海外からの女性外科医をお招きして、レセプションを持ちました。女性初期研修医が11名も参加してくださり、世界で活躍する女性外科医たちのオーラを浴びて、彼女たちの今後の励みになったと思います。

次回、この学会は2013年にフィンランドのヘルシンキで開催されます。女性外科医のセッションがもちろん企画されています。



Neurotropin®



下行性疼痛抑制系賦活型
疼痛治療剤(非オピオイド、非シクロオキシゲナーゼ阻害)

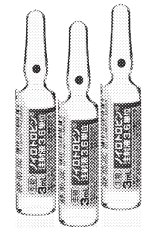
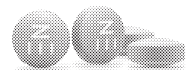
ナイトロピン®錠4単位

ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液含有製剤〈薬価基準収載〉

疼痛(非オピオイド、非シクロオキシゲナーゼ阻害)
スモン後遺症状(冷感・異常知覚・痛み)、アレルギー性鼻炎・そう痒

ナイトロピン®注射液3.6単位

生物由来製品 処方せん医薬品^注 ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液含有製剤〈薬価基準収載〉
注)注意—医師等の処方せんにより使用すること



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

製造販売元 **日本臓器製薬**
〒541-0046 大阪市中央区平野町2丁目1番2号
資料請求先：学術部

くすりの相談窓口 ☎06-6233-6085
土・日・祝日を除く 9:00~17:00

2009年12月作成

TVウォッチング



TVドラマ “JIN”

埼玉 酒井シヅ

平成22年後半と23年前半の2回、村上もとか原作の漫画『JIN—仁—』の連続ドラマがテレビで上映され、高視聴率で話題になった。それより先、漫画『JIN—仁—』は『週刊スーパージャンプ』に10年ちかく連載していたときから話題作になっていたが、週刊誌の読者が限られていたこともあって、知る人ぞ知るといった作品にとどまっていた。筆者は漫画『JIN—仁—』がはじまったときから医療考証を担当した。

「JIN」がテレビで放映されると、平均視聴率19%を超える人気番組になり、33冠の賞を総なめにした。なかでも、フランスで行われた、テレビ番組のバイヤーが選ぶ賞を受賞したことで海外での知名度を一気にあげ、南米以外80カ国での放映が決まったという。ちなみに、原作漫画『JIN—仁—』も2011年度の漫画界最高峰の手塚治虫賞を受賞した。

荒唐無稽ながらも……

ストーリーは、主人公、脳外科医の南方仁（大沢たかお）がある日突然、幕末（文久2年/1862）にタイムスリップして、江戸の町で、当地の医術を超えた治療をつぎつぎと行い、死ぬしかないと諦めていた人々を救って、かれらの運命を変えていく。また坂本龍馬など歴史上の著名人を登場させて、歴史的事実をしっかりと描き、荒唐無稽ながらドラマとしてリアリティを持たせていた。

ところでテレビは漫画と少し違っていた。テレビでは大学病院に勤務していた南方の同級生で恋人の未来（中谷美紀）が登場する。未来は小脳腫瘍を病み、南方が主治医となって手術する前夜から話ははじまる。手術は難手術で未来は植物人間になってしまった。悔いる南方が当直医に徹するが、ある日、奇妙な患者が緊急入院した。漫画はここからはじまる。脳に胎児様の腫瘍がある救急患者を南方が執刀するが、翌日にその患者が抜けだし、南方をつれて幕末にタイムスリップする。

脳外科医にも考証を依頼

テレビでは江戸で仁の助手になった咲（綾瀬はるか）、南方の現代での恋人であった未来とそっくりの花魁野風（中谷美紀）の女性3人（?）がからんだ恋の行方が最後までわからず、はらはらさせる。

ストーリーは荒唐無稽であるが、それと知っていても、スーパー医師が江戸の人々を驚かせ感動させる話につき込まれてしまう。「JIN」では江戸と現代の治療に根本的な違いのある病を話題にした。最初に出てきたのは、辻斬りで頭に刀傷を受け、意識不明になった侍の手術である。この侍が咲の兄恭太郎であったことから、咲の実家で手術する。X線装置など診断器機は何もない。脳外科医・仁は視診、問診からだけで硬膜下血腫と診断・手術する。麻酔、手術道具は何にもない。大工道具を使っての手術であった。血腫を無事に探り当てて、恭太郎は快復する。裏話になるが、漫画原作者村上もとか氏は、資料に忠実であろうと、いろいろな人に考証を依頼した。手術の指導ならびに病気のアイデアは杏林大学富田泰彦講師が担当した。富田氏は脳外科医である。仁の迫真せまる演技は富田氏の現場での指導によるものであった。

ペニシリンも製造！

その後、仁はさまざまな病に取り組む。現代では誰もがができる治療を、医療器機や治療薬がないために阻まれ、苦しむ。そのたびに、恋人未来が「神は乗り越えられる試練しか与えない」と言っていたことを思い出して挑戦する。当地で入手できる材料を探して、医療器機をつくり、蒸留水を造り、静脈注射、輸血、点滴などを行う。もっとも人々を驚かせたのがペニシリン製造であろう。ストーリーは、仁が学生時代に青カビからペニシリンを作る実験を未来と一緒にやったときのことを一生懸命に思い出して、青カビをあつめ、ペニシリンを抽出して精製するのだが、ペニシリン制作は北里大学抗感染症薬研究センター花木秀明センター長が考証したもので、本格的であった。

ところで、現代医学が江戸時代の医学と画期的に違うのは、感染症の制御が出来るようになったことと、外科的治療の飛躍的な進歩である。

仁がペニシリンを作ろうと決意したきっかけは、吉原で悲惨な末期を迎えていた昔の花魁夕霧を助けねばと思ったことであった。江戸時代には梅毒は多かった。しかも治せなかったことを『解体新書』の訳者杉田玄白は嘆いている。遊郭を公認していた江戸時代は性病が野放しに広がっていた。明治になっても梅毒は手がつけれなかった。1910（大正7）年にエールリッヒ、秦佐八郎がヒ素剤サルバルサンを抗梅毒薬として完成させて、はじめて治る病になったが、完全に治るようになったのは第二次大戦後ペニシリンが登場してからであった。

外科は19世紀半ばまでは西洋でも江戸時代と余り変わらなかった。1847年にエーテル麻酔が公認され、1860年代に消毒、滅菌が手術に必須であることが周知され、1900年に血液型が発見されて、輸血が安全になるまで、現代外科の本格的な発展は望めなかった。もちろん、その後の点滴など輸液、術後管理が外科を大いに発展させたことも見逃せない。

こころ打つ台詞がヒットの秘密

ところで仁の勤めていた大学病院はお茶の水の順天堂大学を舞台にしていたが、それは、原作者村上もとか氏が筆者に監修を依頼しにこられたときに御茶ノ水駅から順天堂大学をみて、格好の絵になると思われたからである。テレビドラマではプロデューサーの石丸彰彦氏が江戸の街が一望できる絵を見つけ、ド

ラマのはじまりに順天堂大学のたつ台地から南をみた遠望と江戸の絵と重ねて重厚なはじまりをつくったとさく。最後になったが、このドラマの成功は出演者の本当に真摯な演技、裏方の力もさることながら、台本にさりげなくあった、こころ打つ台詞がヒューマンドラマとして成功させたと思う。



Book Review

小田泰子著

『スペイン風邪流行とその時代』 を読んで

理事 秋葉則子



仙台市に在住の小田泰子先生が『東北地方と第二師団での流行を中心に』との副題のもとにスペイン風邪の流行の歴史を細かく調べられてまとめたこの本を、

1ページから読み出して改めてスペイン風邪の流行した大正時代という短いこの時代のことが、まったく自分の知識の中に印象深く刻まれていないことが分かりました。

しかし、この短い大正時代の間には首相の退陣、交代が繰り返されていたということ、現代のまさに東日本大震災が、この時期の日本に重なるところがあると考えながら読み進んでいきました。

関東大震災の時には加藤友三郎首相が大腸がんで8月24日に死亡して『首相不在』であったという事実も初めて知りました。またこの年の暮れには『皇太子襲撃』事件もあったそうです。本当に大混乱の大正時代だったのですね。

こんな書き出しのページから本題のスペイン風邪の歴史的検証が小田先生の膨大な資料からきちんと整理され解説されています。先の大正時代の混乱の記述が重なってより一層流行のすさまじさが伝わります。

また、文章に添えられている写真や新聞の切抜きが生々しく伝えてくれます。先生の資料集めの努力に敬服してしまいました。

私は4期8年間県医師会理事を務めました。初年度から公衆衛生担当でしたので今回の新型インフルエンザ騒ぎには当初よりかかわっていました。東南アジアで鳥インフルエンザが発生し死亡者がでたとき、次はどこか？ と、世界中は戦々恐々としていました。ワクチン開発も遅れていて気をもみました。それが鳥から豚インフルエンザとなり、ワクチンも過剰生産となり国が返品に応じてくれほっとしました。パンデミック宣言も解除、新型インフルエンザから季節性インフルエンザへと変わりましたが、まだまだ今後どのような流行が待っているかか、小田先生のこの著書の解説にあるように一つの波のあとから二波、三波の流行があるかもしれないということを常に注意しておかなければなりません。歴史が物語っているのだと小田先生は伝えたいのではないのでしょうか。

被災地の先生から

共に歴史を歩みます

千葉 熊谷貴代

東日本大震災が発生してから、はや半年が過ぎました。復旧復興が叫ばれても、その進行は遅々として進まず、次々と新たに問題が発生し、まだまだ混乱の中であるというのが実状と思われま

す。直接罹災された方も、間接的に影響を受けておられる方も、誠にお気の毒な限りではありますが、今、皆共に歴史を歩んでいるのだと考えざるを得ません。同胞の一人として、何らかの形で痛みを分担しなければと思っております。

この度は、千葉県も被災県として義援金を頂戴致しました。全国の会員の皆様には、厚く御礼申し上げます。

支部会員一同と相談の上、建物や設備にかなりの損壊が出ました2医療関係施設に復旧の一助にして頂くよう、日本女医会からのお見舞金として差し上げました。

・ロザリオの聖母会 聖母療育園（重度心身障害児施設）<旭市野中>

・香取郡市医師会附属 佐原看護学校
<香取市佐原>

幸いにも、千葉県会員の中には人的被害はありませんでしたが、地盤の液状化による広範囲のライフライン損壊や、時間が経過してからの陥没や沈下による家屋の倒壊や傾き、農作物や家畜に関する放射線の被害など、広がりつつあるのが現状です。

また、津田会長、松井・山本副会長先生には、酷暑の7月16日に被災地の一つ浦安市にご来訪いただき、まだ液状化の跡が生々しく残る市内を視察していただきました。

会員3名も加わりお話しを聞いて頂きましたが、当事者としては、とても気持ちが軽くなるものだという事を痛感致しました。先生方に心より御礼申し上げますと共に日本女医会の皆様のご支援に対して深く感謝申し上げます。

今後も会員としての自覚を持って復興への道を歩もうと考えております。



MOHRUS TAPE L[®]



Hisamitsu[®]

経皮鎮痛消炎剤 ケトプロフェン 2%

[薬価基準収載]

モーラステープ[®] L 40mg

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元  久光製薬株式会社 〒841-0017 鳥栖市田代大官町408

資料請求先：学術部 〒100-6221 東京都千代田区丸の内1-11-1

2011年5月作成

東日本大震災 義援金のご報告・続報

多くの先生方からご送金頂きまして、誠にありがとうございます。
 今後のお見舞金等寄付先に関しましては、現在検討中でございます。
 決定次第ご報告させていただきます。

9月16日現在 361件 ¥10,870,000 お見舞金支出 ¥4,000,000

義援金賛同者芳名 (敬称略・順不同)

埼玉支部	¥100,000
岐阜支部	¥25,000
都築俊子 (都下東)	¥100,000

207号の訂正

・静岡の木佐森可也子先生を愛知と掲載しておりました。お詫びして訂正させていただきます。 広報部

(((理事会議事録)))

日時：平成23年6月18日(土)
 午後3時
 場所：(社)日本女医会会議室
 出席者：津田、古賀、松井、山本、
 秋葉、小関、川村、澤口、
 諏訪、高原、塚田、対馬、
 濱田、前田、宮崎、
 山崎、山田、横須賀、森川、
 中井 (20名)
 欠席者：安部、大谷、藤川、細川、
 宮本、矢口、吉馴 (7名)

・4月理事会議事録を承認

報告事項

- <庶務部報告> (宮崎理事)
- 1) 理事会を日本女医会会議室にて開催 (4/16)
 - 2) 第56回定時評議員会、第56回定時総会を東京・京王プラザホテルにて開催 (5/29)
- <会計部報告> (塚田理事)
- 1) 4月、5月分の収支を承認。
- <事業部報告> (高原理事)
- 1) 第56回日本女医会総会の交流会において、4名の若手医師と医学生の発表が英語で行われた。(5/29)
- <渉外部報告> (澤口理事)
- 1) 東日本大震災後の日本女医会の活動を簡略にメールで国連 NGO 国内婦人委員会に報告した。(5/29)
- <広報部報告> (横須賀理事)
- 1) 4/25に会誌第206号を発行。207号は7月25日に発行予定。広告は7社。
 - 2) 207号に掲載する東日本大震災関連の記事執筆の協力依頼。
 - 3) 公益法人化以降に伴う義援金や支部

- の表現についての確認。(津田会長)
- <委員会報告>
- 1) 子育て支援委員会・長寿福祉委員会 (山本副会長)
 本年度分も福祉医療機構の助成金に申請中。
- <その他の報告>
- 1) 「災害・復興と男女共同参画」6・11シンポジウムの参加報告。
 (津田会長・松井副会長)

継続審議事項

1. 公益法人申請について (松井副会長・羽田氏)
 - 1) 定款の変更について審議した結果、全理事の3分の2以上の賛成をもって可決した。
 - 2) 各事業の概要・区分の確認。また、担当部会の責任分担を決定した。事業内容等については各部検討の上、7月中旬までに羽田氏にメールで連絡をする。

審議事項

1. 第56回定時評議員会、定時総会の反省点 (小関理事)
 - 1) 事前打ち合わせと連絡を徹底する。
 - 2) 写真撮影については、今後は庶務部以外にも協力を仰ぐ。
 - 3) 議事録署名人の着席位置を検討する。
 - 4) 議長団、議事録署名人の指名は打診は書面で行い、余裕を持ったスケジュールで決定する。
 - 5) 津田会長より定款改正について発言があった。
 定款変更に関して、総会出席者数が必要定数(3分の2)に満たなかったため、臨時評議員会、および総会を以下の日程で開催する。それに伴い7月理事会も同日午前に行うこととする。また、委任状の回収に

ついては、各理事が自支部の会員に積極的に声を掛けるなどして、定数確保を図る。 <承認>
 日時：8/7(日)

11時～13時 理事会
 13時～14時 臨時評議員会・総会

会場：京王プラザホテル

2. 東日本大震災支援について

(津田会長、秋葉理事)

- 1) 千葉支部の被災状況と支援金について：秋葉理事より県内の被災状況の報告があった。 <承認>
- 2) 支援金は100万円とし、7/16に会長が直接千葉を訪問する。 <承認>
- 3) 集まった支援金の使途については、預かり金として処理している関係上、公益的な事業、被災した医療機関への寄付等に使い道を限定して頂く旨、配布先各支部に願います。 <承認>
3. ブロック懇談会について(津田会長)
 - 1) 公益法人化に伴い、会員間のみで交流を図るだけではなく、広く人を集めることを目的に順次移行してゆく。 <承認>
4. 女性医師支援委員会より(澤口理事)
 - 1) 女性医師支援シンポジウムの活動報告書を8月初旬に作成予定。発行部数は2000部。協力医科大学のほか、全会員向けに会誌と同時に発送する。 <承認>
 - 2) 次期シンポジウムの目的、講師候補については、本日開催する女性医師支援委員会で決定する。(9/4 四谷・ルークホール)
5. 学生向けパンフレットについて (高原理事)
 - 1) 入会案内用パンフレット作成のた

- め原案を作成中
- 2) 学生会員のためのチャットルームを8月に開催予定
 - 3) 「生き生きと働く女性医師のための提言」(仮題)というテーマで作文による提言事業を、12月末締切で募集をかける。受賞者は、次回総会で表彰する。今後は年1回各地の医師会ごと、大学ごとに募集。女性医師であれば年齢は問わない。
 6. HPコンテンツの検討および追加削除の方法について
 - 1) 放射線被害について、専門分野の会員医師の寄稿・記事をHPに掲載することについて検討。
 - 2) HPに掲載する会員の著書等については、随時理事会に諮って決定する。
 7. その他
 - 1) 平成24年度評議員会・総会について <承認>
- 日時: 5/19(土)～20(日)
19日午後評議員会を開催、夜は鵜飼見学。
20日総会(選挙を含む)。
- 2) 職員夏季賞与について
- 以上

日時: 平成23年8月7日(日)
午前11時
場所: 京王プラザホテル 44階
アイリス
出席者: 津田、古賀、松井、山本、秋葉、安部、小関、川村、澤口、諏訪、高原、塚田、対馬、濱田、藤川、前田、宮崎、山崎、山田、横須賀、吉馴、森川、中井(23名)
欠席者: 大谷、宮本、矢口(3名)

・H23/8月理事会議事録を承認

報告事項

- <庶務部報告> (宮崎理事)
- 1) 6月理事会を日本女医会会議室にて開催。(6/18)
 - 2) 日本女医会臨時評議員会、臨時総会のお知らせを会員に発送。(6/30)
 - 3) 「日本女医会誌207号」「第4回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム報告書」を会員に送付。(7/25)
 - 4) 職員に夏季賞与を支給。(7/5)
- <会計部報告> (濱田理事)
- 1) 6月、7月分の収支を承認。
- <渉外部報告> (松井副会長)
- 1) 「男女共同参画推進連携会議」の

- DVに関する小委員会より助成を受けることが決定した。(8/5)
- <広報部報告> (横須賀理事)
- 日本女医会誌207号編集会議、7/25に発送。
会誌掲載広告について報告。
ホームページのアクセス数について報告。今後は前月のアクセス数を理事会において発表することを決定。
(横須賀理事)
- また、新規の記事の掲載については、配布資料の流れに沿って掲載申請・承認を行うことを確認。
- <学術部報告> (安部理事)
- 山本蒔子先生に禁煙に関するHP用の原稿の作成を依頼しており、近日中に掲載される予定。
今後は、会員以外の方にも依頼を進めていく予定。
- <委員会報告>
- 1) 女性医師支援委員会 (澤口理事)
 - ・「第4回 医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム報告書」が完成。
 - ・今後の刊行物に対する校正チェックの体制についての検討。
 - 2) 子育て支援委員会
 - ・23年度の福祉医療機構の助成金が



Good Chemistry for Tomorrow 三菱ケミカルホールディングスグループ

一人を愛する気持ちで、世界も愛したい。そして田辺三菱製薬は、国際創薬企業へ。



田辺三菱製薬

<http://www.mt-pharma.co.jp>

得られなかったため、今後のゆいネットの活動については年1度程度のシンポジウムのほか、各地方のゆいネット活動については、それぞれの自主的な活動に委ねる。

- ・岐阜ゆいネットの開催が決定(10/1)。
- ・「思春期の対応マニュアル」が好評なため、増刷して有償での配布を検討中。

<その他の報告>

- 1) 東日本大震災支援について (津田会長)
 - ・千葉支部への支援金を、津田会長、松井副会長、山本副会長の3名でお届けした旨の報告があった。(7/16)
 - ・岩手支部から高田保育所(陸前高田市)へ中古ピアノをお届けした。
- 2) 細川美智子理事からの辞意を定款に則り受理し、法的手続きも完了している旨の報告があった。
- 3) 内閣府男女共同参画局より依頼のあった「東日本女医会大震災復興に向けた末松現地復興対策本部長との対話」(8/24)について、樋渡奈々子先生が意見発表を行う予定である旨の報告があった。(古賀副会長)
- 4) 支部報告
 - ・宮城支部総会の報告と総会資料の贈呈があった。(古賀副会長)
 - ・神奈川県支部総会の報告があった。(小関理事)
 - ・埼玉支部総会は、松井福会長が出席した旨報告あった。(松井副会長)

継続審議事項

1. 公益法人申請について
 - 1) 午後からの評議員会、臨時総会に伴い、羽田氏より定款案の個別の事業内容についての変更点、修正点について説明があった。また、津田会長から事業内容数件について、統合する旨の報告が
2. 学生向け提言事業についての詳細 (藤川理事)
3. ブロック懇談会について (宮崎理事)

審議事項

1. 臨時総会について
 - 1) 定款案の説明 (羽田氏)
 - 2) 議長、議事録署名人の承認
 - 3) 会の進行について (山崎理事)
2. 第10回国際女医会西太平洋地域会議について
 - 1) ICSへの支払いについて(資料4) (安部 NC 補佐)
 - 2) 総括 (津田会長)
3. 第57回総会について
4. 東日本大震災への支援について (事業部)
5. ホームページへの原稿・記事等の追加削除の方法について(資料5)

(横須賀理事)

6. 第5回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「各大学における女性医師支援の成果と問題点」(9/4)の参加者動員について (澤口理事)

7. その他

(資料1)

会員動静 (敬称略)
 総会員数 1,591 名
 (入会者 10 名 退会 4 名 物故者 8 名)
 入会

- 川部 幹子 (昭63年度・愛知) 木村俊子先生紹介
- 北條 貴子 (平2年度・千葉) 日高往古先生 / 山本みどり先生紹介
- 佐藤 文子 (平6年度・神奈川)
- 青木 顕子 (不明・栃木) 山崎トヨ理事紹介
- 吉武久美子 (平18年度・荒川)
- 後藤 敬子 (昭24年度・群馬)
- 山田邦子理事紹介
- 若松 環 (昭60年度・群馬)
- 山田邦子理事紹介
- 円城寺しづか (昭60年度・佐賀)
- 横須賀麗子理事紹介
- 藤谷宏子 (昭和54年度・大阪)
- 丸山優子先生紹介
- 小野佐世子 (平8年度・群馬)
- 山田邦子理事紹介

退会

- 加藤 直子 (平5年度・栃木)
- 松峯 寿美 (昭45年度・江東)
- 藤村 澄江 (昭37年度・宮城)
- 涌井 恒子 (昭25年度・宮城)

物故

- 佐藤 京子 (昭19年度・群馬)
- 高橋 禮子 (昭26年度・福島)
- 堀井あさ子 (昭31年度・愛知)
- 水野 綾子 (昭18年度・宮城)
- 藤尾 良枝 (昭14年度・新宿)
- 堀内久仁江 (昭35年度・神奈川)
- 重松 純子 (昭28年度・大阪)
- 黒木 三代 (昭12年度・鹿児島)

お知らせ その他

- 1) 財団法人加多乃会より、以下の異動のお知らせがあった。
 鮫島美子氏が会長を退任、会長に水野孝子氏が就任した。
- 2) 社団法人至誠会より、平成23年4月1日付けで一般社団法人至誠会に移行した旨のお知らせがあった。
- 3) 市川房枝記念会女性と政治センターより、目黒依子氏理事長就任のお知らせがあった。
- 4) 独立行政法人 国立女性教育会館より、以下の異動のお知らせがあった。
 神田道子氏が理事長を退任、理事長に内海房子氏が就任した。
- 5) 福島の草野道子先生より、被災見舞

いに対するお礼状が届いた。

- 6) 陸前高田市立高田保育所の熊谷先生よりピアノのお礼状が届いた。

連絡事項

- 1) 転倒予防医学研究会 「第8回研究会」
 平成23年8月31日 当日消印有効
 詳細は <http://subsite.icu.ac.jp/cgs/>
- 2) 第40回医療功労賞 海外部門推薦のお願い
 平成23年6月16日(木)～10月31日(月)
 問い合わせ 読売新聞東京本社事業開発部「医療功労賞」事務局
 Tel:03-51596-5886 Fax:03-5159-5878
- 3) 婦人国際平和自由連盟日本支部 / 日本女子大学生涯学習センター 連携講座
 場所：日本女子大学百年館
 第1回 「アラブ革命」はなぜ起きたか? ～中東政変の背景～
 平成23年10月1日(土) 13時30分～15時30分 参加無料
 第2回 「アラブの春」はどこへ向かうのか? ～中東政変の現状と展望～
 平成23年10月15日(土) 13時30分～15時30分 参加無料
- 4) (財) 法人日本学習財団 女性のキャリア形成支援者スタートアップ講座
 2011年6月16日、12月14日、2012年2月10日 問い合わせ：公益財団法人 日本女性学習財団 Tel:03-3434-7575 Fax:03-3434-8082

寄贈本、パンフレットなど

- ・日医総研ワーキングペーパー No.232 「地域における在宅医療の進展状況に関する調査」
- ・日医総研ワーキングペーパー No.234 「病院における地球温暖化対策自主行動計画」
- ・日医総研ワーキングペーパー No.235 「地方の中小病院の現状について」
- ・東京女子医科大学 110周年記念誌
- ・「JMS 7月」「JMS 8月」
- ・日本婦人有権者同盟「婦人有権者第66巻8号」
- ・東京医師会雑誌 2011 Vol.64 No.6
- ・YWCA 8月号
- ・都医ニュース Vol.545
- ・なごやか 2011 vol.8
- ・NPO 法人 J-Win「J-Win Report」No.15
- ・婦人国際平和自由連盟日本支部「パレスチナ / イスラエル問題の現状」報告書
- ・婦選会館ニュース 2011.6 No.228
- ・婦人国際平和自由連盟日本支部「婦人と平和」第121号
- ・UM Women 東京 Vol.2
- ・全国知事会 「女性医師がいきいき仕事を続けるための提言」

社団法人 日本女医会 第1回 提言論文募集

2012年に創立110年目を迎える日本女医会は、女性と子供の健康を守り、医療・医学に貢献することを目的に活動してきました。この度、女性医師がその力を十分に発揮して、仕事を継続するための新たな活動の展開に向けて、医療・医学の現場の女性医師および女子医学生の提言を募集します。

課題：『女性医師が輝いて働くための提言』

内容：○女性医師が、専門職としてのキャリアを重ねながら子育てや介護も両立でき、医師として正当に評価される社会を築くための提言

○医療・医学の分野における男女共同参画社会の実現を図るため、政策・方針決定過程への女性医師の参画拡大を推進するための提言

応募資格：女性医師および女子医学生

執筆要領：

1. 800字程度
2. 原稿はマイクロソフト社ワード（Microsoft Word）で執筆し、電子メールに添付してください。
3. 添付資料：提言の題名、住所、氏名（ふりがな）、生年月日、電話番号、電子メールアドレス、所属・役職名（医学生は大学名・学年も）を明記した別紙を提言論文に添付してください。
4. 提出先電子メールアドレス：office@jmwa.or.jp（日本女医会事務局）

入選者数：3名以内

審査員：日本女医会会長、副会長（3名）、事業部理事（4名）

募集期間：平成23年10月1日（土）～平成24年2月29日（水）※電子メール平成24年2月29日（水）送信分まで。

入選発表：平成24年3月31日（土）入選者に通知するとともに、日本女医会ホームページ上にて発表します。

表彰：平成24年5月20日（日）に開催する日本女医会総会において表彰します。

賞金：1人2万円

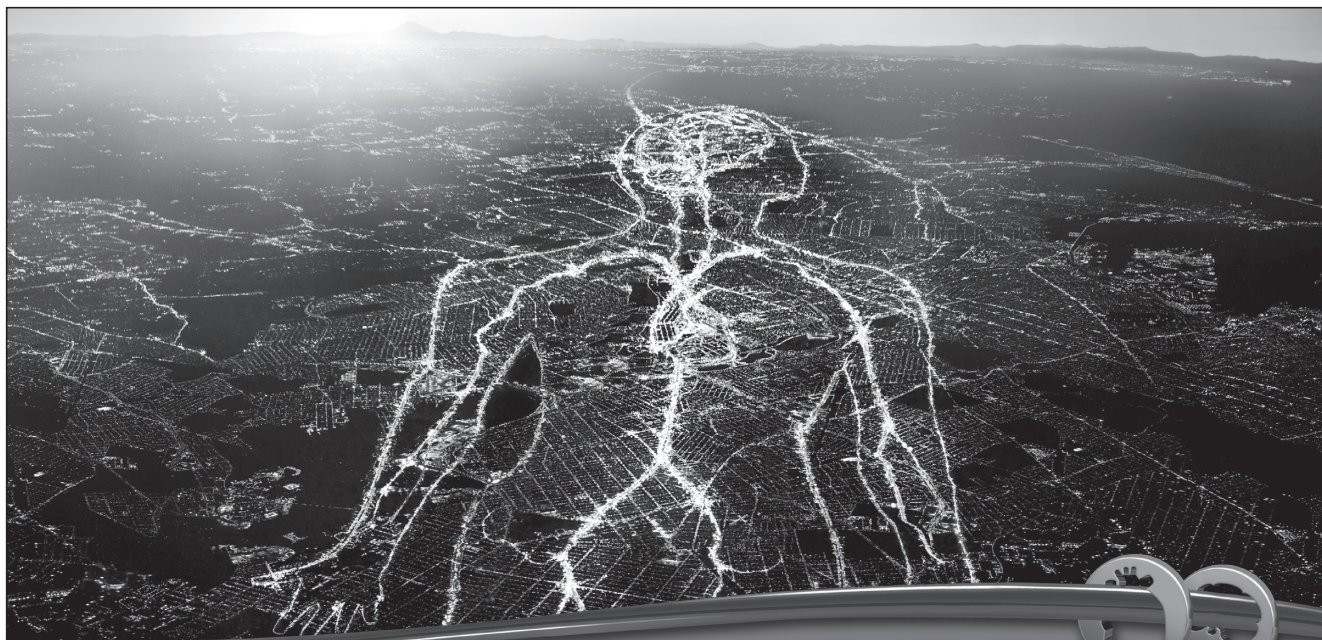
著作権：応募論文の著作権は主催者に帰属します。応募論文は未発表のものに限ります。なお、入選論文を含む優秀作品は日本女医会ホームページ等に掲載します。

問い合わせ先：日本女医会事務局

office@jmwa.or.jp

TEL 03-3498-0571

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-8-7 青山宮野ビル



抗血小板剤

処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）

プラビックス[®] 錠 75mg / 25mg

クロピドグレル硫酸塩製剤 ●薬価基準収載

★「効能又は効果」「用法及び用量」「禁忌を含む使用上の注意」等については現品添付文書をご参照ください。

★資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

e-MR

<http://e-mr.sanofi-aventis.co.jp/>

2010年8月作成 JPCLO.10.08.13 (PLV889A)

製造販売：サノフィ・アベンティス株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

sanofi aventis

Because health matters

(社) 日本女医会・事業部よりご案内

<地域医療奉仕活動に対する助成のご案内>

平成23年「地域医療奉仕活動」に対して助成をいたしますので、ご案内申し上げます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。

締切期日：平成23年12月25日(日) 当日消印有効

申請書は事務局でご用意しておりますので、お問い合わせ下さい。

<公開講演会開催依頼について>

日本女医会では、公衆衛生の向上を図る為、公開講演会を開催致します。開催を希望される場合、各地の実情に合ったテーマ、演者、日程を組んでお申し出下さい。

理事会で検討の上、決定致します。

(社) 日本女医会・学術部よりご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項に従って、事務局あてに申請くださるようお願いいたします。

1. 助成の趣旨 医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

2. 助成金額 1件～30万円(3件まで)

3. 申込手続

(1) **応募資格**：入会継続3年以上経過した日本女医会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割を担うものであること)

(2) **助成期間**：1年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3年以上の間隔を置く。

(3) **応募方法**：日本女医会ホームページ(<http://jmwa.or.jp/joseikin.html>)より所定の用紙をダウンロードして作成し郵送。

html)より所定の用紙をダウンロードして作成し郵送。

(4) **締切期日**：平成23年12月25日(日) 当日消印有効

(5) **選考および発表方法**：選考委員会において選考の上、平成24年2月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

(6) **助成金の贈呈**：平成24年5月開催の日本女医会総会の席上。

(7) **受賞者の本会に対する義務**：平成25年3月末日までに研究経過報告(A4原稿用紙2枚程度)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。また将来、ホームページ「学術研究助成受賞者の軌跡」欄(<http://jmwa.or.jp/kiseiki/index.html>)に寄稿していただきます。

(8) **送り先**：社団法人 日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 ☎03-3498-0571

(社) 日本女医会よりご案内

<日本女医会吉岡弥生賞推薦について>

平成23年「日本女医会吉岡弥生賞」受賞の適格者を本会理事宛にご推薦くださるようお願い致します。

締切期日：平成23年12月25日(日) 当日消印有効

次の書類を添えて、ご推薦をお願いいたします。

1. 候補者の履歴書

2. 業績 A：医学に貢献した現会員

B：社会に貢献した現会員

3. 推薦理由(推薦者の氏名、捺印をもって提出)

<日本女医会荻野吟子賞推薦について>

平成23年「日本女医会荻野吟子賞」受賞の適格者を本会理事宛にご推薦くださるようお願い致します。尚、会員・非会員を問いません。主に地域医療に貢献された方を対象としています。

締切期日：平成23年12月25日(日) 当日消印有効

1. 候補者の履歴書

2. 業績(地域に貢献した方)

3. 推薦理由(推薦者の氏名、捺印をもって提出)

会員動静 (2011年10月4日現在・敬称略)

入会	卒年度	入会	卒年度	入会	卒年度	物故	卒年度
後藤敬子	昭和24 (群馬)	佐藤喜美子	昭和46 (板橋)	榎本多津子	昭和51 (和歌山)	三須雅子	昭和35 (埼玉)
若松環	昭和60 (群馬)	澤田雅子	平成1 (文京)	円城寺しづか	昭和60 (佐賀)	松田文子	昭和36 (栃木)
小野佐世子	平成8 (群馬)	唐澤久美子	昭和61 (文京)	退会 6名		藤尾良枝	昭和14 (新宿)
青木顕子	平成23 (栃木)	佐藤文子	平成6 (神奈川)	物故 卒年度		堀内久仁江	昭和35 (神奈川)
北条貴子	平成2 (千葉)	武者稚枝子	平成5 (山梨)	水野綾子	昭和18 (宮城)	堀井あさ子	昭和31 (愛知県)
木村康子	昭和63 (足立)	川部幹子	昭和63 (愛知)	高橋禮子	昭和26 (福島)	重松純子	昭和28 (大阪)
吉武久美子	平成18 (荒川)	藤谷宏子	昭和54 (大阪)	佐藤京子	昭和19 (群馬)	黒木三代	昭和12 (鹿児島)

編集後記

振り返りますと平成23年は慌ただしい年でしたが、皆様の御協力で有意義な会誌が発行できました。公益法人化へ向けての行動、西太平洋会議の準備、岐阜にての地域懇談会、東日本震災原発事故による行事予定変更と義援金募集、被災地へ義援金を携えての会長・副会長・理事の訪問及び被災地の先生方からの報告、日本女医会総会臨時総会、日本女医会定款変更、吉岡弥生賞・荻野吟子賞受賞者の言葉、学術研究助成者の報告、ゆいねっと開催、第5回医学を志す女性のためのキャリアシンポジウム、第1回提言論文募集、支部便り等、日本女医会のありかたの発信が皆様の並々ならぬ努力で会誌により伝わったことと思います。今後共更なる事業の充実の報告が日本女医会誌を通して出来ますよう各会員の先生方よろしく御協力のほどお願い申し上げます。(横須賀 麗子)

日本女医会誌

復刊第208号 2011年10月25日発行
 編集人 対馬ルリ子
 発行人 津田 喬子
 制作 あづま堂印刷製
 発行所 社団法人 日本女医会
 ☎150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7
 青山宮野ビル
 TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769
<http://www.jmwa.or.jp>
 e-mail : office@jmwa.or.jp